夕刊 臺灣新報 第一方五千百九十一號 昭和十七年六月十一日（木曜日） （第二種）（昭和一年三月九日第三種郵便物認可）

敵の抗戰意思著減
皇軍に民衆協力
後宮總參謀長北支視察談

パーセントであつたが今や大半は大十五パーセントの多きに過し、殘兵の如きも部隊の三百乃至千人に過ぎず、しかも之等は殆んど武器を棄て、或は之を隱匿して居るが、これ等敵の抵抗意志が著しく減退して居る事である、北支の治安確保に關し、皇軍に協力して居る。

また北支の治安確保に關し、皇軍に協力して居る。

重慶危機強調

【リスボン十日發同盟】ロイター通信重慶發に據れば國民スポークスマンは五日中國國民黨の宣傳する危機を強調し左の如く述べた

重慶の政治的危機に關し最も大なる責任を有する人物は蔣介石總統であつて彼は今や全く孤立し居り、彼の政策は全く破綻に瀕して居るが故に重慶の人心は極度に不安動搖し居り、今次の空襲は重慶の人心に非常な打撃を與へた

南支の敵陣大混亂
余、李の暗鬪も表面化

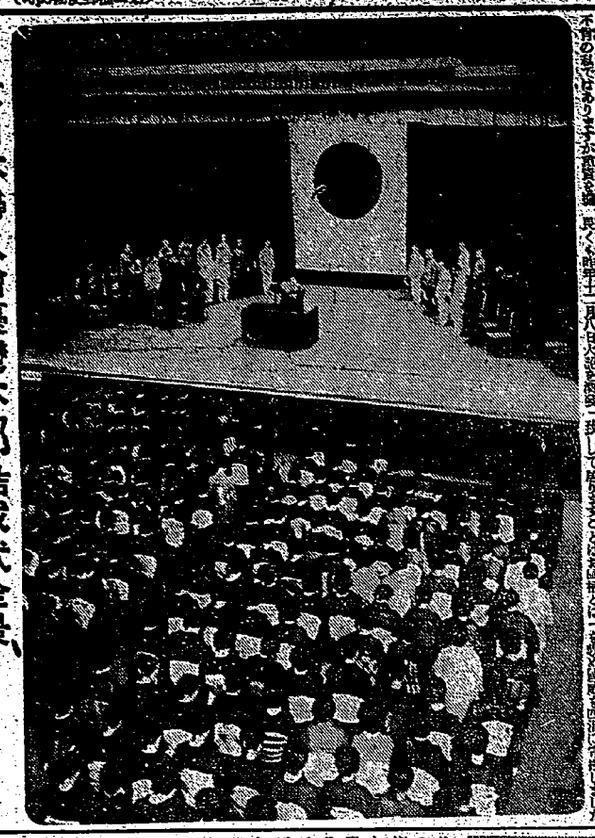
【重慶十日發同盟】英米側の三國同盟強化に對する反撥的態度は日に日に露骨となり、特に英國の對日宥和的態度に對しては國民黨内の一部よりも極端なる反英的言動が現はれ、英國の對支援助物資の一部が日本軍の手に渡つて居るとの非難の聲さへ擧つて居る、かかる情勢の下に於て蔣介石總統は國民黨内の統一を圖るため、從來の對日和平論者たる汪兆銘一派に對する壓迫を緩和し、これを重慶に呼び戻すべく種々の手段を講じつゝあるが、これに對し從來の抗戰派は汪一派の重慶復歸に對し極力反對の態度を示しつゝあるため、蔣介石總統は兩派の間に介在して苦境に陷つて居るとの觀測が有力である

怒江西岸地區の殘敵を完全掃蕩

【ビルマ前線○○○發十日發同盟】ビルマ戰線○○○發十日發同盟】ビルマ戰線○○○發十日發同盟】ビルマ戰

大日本婦人會臺灣本部結成式

晴れの結成式を擧行
擧島百萬婦人翼賛體制成る



大日本婦人會臺灣本部結成式全景

總裁宮殿下令旨

大日本婦人會總裁モテル故ニ總裁ノ任ニ就キ親シク臣民ニ告ケ給フノ大令ヲ仰ギ會員トシテ其ノ職分ニ精進ニ努ムヘキ旨ヲ傳ヘ給ヘル勅語ヲ謹ミテ拜承シ一致協力ヲ擴テアラ國家ニ報セムコトヲ期ス

銃後の總力戰への意氣を實踐に邁進

長谷川本部長の挨拶

（下）服裝關係司會者席間で協議の末會場の關係上略服に決定したこと（上）本結成式に臨席の總督閣下

女子の總親和具現

安藤軍司令官の告辭

銃後奉公の萬全切望

山本馬公警備府司令長官告辭

武力に並行銃後勝利

長谷川總督の告辭

臺灣全島に洽く歸鄕奉公團の結成

皇奉　南方の尊い體驗活用

婦道の確立熱望

山本事務總長の祝辭

和やかな結成式情景

若人に感激を聽く

一生懸命奉公

黃靑波君語る

御國に一死奉公

楊川火君語る

島都基隆のコレラ終熄か

不眠の防遏

衛生當局の殊勳

役員の氏名

本部長　長谷川清
副本部長　齋藤國平、關口泰
參與　長谷川清、安藤紀三郎、山本弘毅、安藤彥太、山本悌二郎、安藤正次、石井龍馬、關口泰、加藤恒忠、林獻堂、許丙、香久山榮、林熊徴、許梓桑、葉盛吉、蔡式穀、黃欣、黃純青、蔡培火、吳三連、辜振甫、辜偉甫、辜顯榮、辜顯榮、辜顯榮

臺灣日日新報　第一萬五千八百十一號　昭和十七年六月十一日（木曜日）　（第二種）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）

東太平洋海域敵を猛襲

ミッドウエーに猛烈なる強襲
海陸、アリューシャン猛攻
米航空母艦（エンタープライズ）型一隻を撃沈

【東京發同盟至急報】大本營發表（十日午後一時卅分）東太平洋全海域に作戰中の帝國海軍部隊は六月四日アリューシャン列島の敵據點ダッチハーバー並に同列島一帶を急襲し四日、五日兩日に亙り反復これを攻撃せり、一方同五日洋心の敵根據地ミッドウエーに對し猛烈なる强襲を敢行すると共に同方面に增援中の米國艦隊を捕捉猛攻を加へて敵海上及び航空兵力並に重要軍事施設に甚大なる損害を與へたり、更に同七日以後陸軍部隊と緊密なる協同の下にアリューシャン列島の諸要點を攻略し目下なほ作戰續行中なり、現在までに判明せる戰果左の如し

一、ミッドウエー方面

イ、米航空母艦エンタープライズ型一隻及びホーネット型一隻撃沈

ロ、彼我上空に於て撃墜せる飛行機約百二十機

ハ、重要軍事施設爆砕

二、ダッチハーバー方面

米海空軍の根據ダッチハーバー

ニ、敵は數年來この地を極東に於ける攻撃の中心として重點を置き、要塞の構築に從事してゐたが、米國參戰後この地を極東攻撃の基地として重視し、特に航空基地、重油タンク等、大規模の外廓陣地があり米國は日本攻撃の前進基地として使用されてゐた、更に最近には北方ベーリング海アリューシャンに對する進攻路として極めて重要視されてゐた米本土最短の地點にあり、この點は米國で人口に於て最も稀薄な地域である

ホ、我が方損害

イ、航空母艦一隻喪失、同一隻大破、巡洋艦一隻大破

ロ、未歸還飛行機三十五機

三、本作戰に於ける我が方損害

イ、擊墜破せる飛行機十四

ロ、大型輸送船一隻擊沈

ハ、重油槽群二ケ所、大格納庫一棟爆破炎上

米國最後の進攻路
哀れ・中途から寸斷
ハワイへの後退は必至

二、ダッチハーバー方面

米海空軍の根據ダッチハーバー

ニ、敵は數年來この地を極東に於ける攻撃の中心として重點を置き、要塞の構築に從事してゐたが、米國參戰後この地を極東攻撃の基地として重視し、特に航空基地、重油タンク等、大規模の外廓陣地があり米國は日本攻撃の前進基地として使用されてゐた、更に最近には北方ベーリング海アリューシャンに對する進攻路として極めて重要視されてゐた米本土最短の地點にあり、この點は米國で人口に於て最も稀薄な地域である

ホ、我が方損害

イ、航空母艦一隻喪失、同一隻大破、巡洋艦一隻大破

ロ、未歸還飛行機三十五機

三、本作戰に於ける我が方損害

イ、擊墜破せる飛行機十四

ロ、大型輸送船一隻擊沈

ハ、重油槽群二ケ所、大格納庫一棟爆破炎上

ニューカッスル、シドニー
我潛水艦の砲撃受く
戰火遂に濠洲南部に波及

【重慶發同盟】濠洲政府が西太平洋において米英蘭軍と最緊密協力關係に入つてから後、數多の敵艦に上つて西南太平洋から濠洲南部の軍港に對し頻繁に空襲を敢行し來つたが、去る五日にはミッドウエー海戰に參加せる敵空母エンタープライズ型艦を含む敵艦隊を發見、これに對し我潛水艦隊は果敢なる攻撃を敢行、敵艦隊の旗艦と目される大型艦一隻を撃沈、更に六日には敵艦隊の本拠ニューカッスル港に對し潛水艦による砲

日本語の南方への進出

本島國語普及運動に三段階

一

南方諸島に於ける國語に關する施策は日本語が將來、同諸地方に於ける日本語の普及徹底に資するやう、又日本語の普及徹底が同諸地方に於ける皇民化運動に資するやう、更に又日本語の普及徹底が同諸地方に於ける日本の統治力の強化に資するやう、それぞれ考慮を拂ひ、且つ各地の國語に關する實情に即應して適切なる施策を講ずることが肝要である。

二

國語普及の方法の如何は、各地の實情に應じ、且つ各地の國語に關する施策の進展に即應して、これを決定すべきものであるが、概ね次の三段階に區別して考へるのが適當であらう。

第一段階は、國語普及運動の準備時代である。この時代には、國語普及の基礎工作として、國語の音韻、文法、語彙等の研究調査を行ひ、國語教科書、國語辭典、國語讀本等を編纂し、又國語教員の養成、國語講習會の開催、國語普及團體の組織等を行ふ。

第二段階は、國語普及運動の實施時代である。この時代には、國語教科書、國語讀本等を使用して國語教育を實施し、又國語講習會を開催して國語普及運動を實施する。

第三段階は、國語普及運動の完成時代である。この時代には、國語が日常生活に於ける國民の共通語として、殆ど全面的に使用されるやうになる。

三

南方諸島に於ける國語普及運動は、現在第一段階の準備時代にあるものと考へられるが、その實施に當つては、次の諸點に留意する必要がある。

一、國語普及運動は、國語の普及徹底を期するために、國語の音韻、文法、語彙等の研究調査を行ひ、國語教科書、國語辭典、國語讀本等を編纂し、又國語教員の養成、國語講習會の開催、國語普及團體の組織等を行ふ。

二、國語普及運動は、國語の普及徹底を期するために、國語の音韻、文法、語彙等の研究調査を行ひ、國語教科書、國語辭典、國語讀本等を編纂し、又國語教員の養成、國語講習會の開催、國語普及團體の組織等を行ふ。

三、國語普及運動は、國語の普及徹底を期するために、國語の音韻、文法、語彙等の研究調査を行ひ、國語教科書、國語辭典、國語讀本等を編纂し、又國語教員の養成、國語講習會の開催、國語普及團體の組織等を行ふ。

四、國語普及運動は、國語の普及徹底を期するために、國語の音韻、文法、語彙等の研究調査を行ひ、國語教科書、國語辭典、國語讀本等を編纂し、又國語教員の養成、國語講習會の開催、國語普及團體の組織等を行ふ。

五、國語普及運動は、國語の普及徹底を期するために、國語の音韻、文法、語彙等の研究調査を行ひ、國語教科書、國語辭典、國語讀本等を編纂し、又國語教員の養成、國語講習會の開催、國語普及團體の組織等を行ふ。

六、國語普及運動は、國語の普及徹底を期するために、國語の音韻、文法、語彙等の研究調査を行ひ、國語教科書、國語辭典、國語讀本等を編纂し、又國語教員の養成、國語講習會の開催、國語普及團體の組織等を行ふ。

七、國語普及運動は、國語の普及徹底を期するために、國語の音韻、文法、語彙等の研究調査を行ひ、國語教科書、國語辭典、國語讀本等を編纂し、又國語教員の養成、國語講習會の開催、國語普及團體の組織等を行ふ。

八、國語普及運動は、國語の普及徹底を期するために、國語の音韻、文法、語彙等の研究調査を行ひ、國語教科書、國語辭典、國語讀本等を編纂し、又國語教員の養成、國語講習會の開催、國語普及團體の組織等を行ふ。

九、國語普及運動は、國語の普及徹底を期するために、國語の音韻、文法、語彙等の研究調査を行ひ、國語教科書、國語辭典、國語讀本等を編纂し、又國語教員の養成、國語講習會の開催、國語普及團體の組織等を行ふ。

十、國語普及運動は、國語の普及徹底を期するために、國語の音韻、文法、語彙等の研究調査を行ひ、國語教科書、國語辭典、國語讀本等を編纂し、又國語教員の養成、國語講習會の開催、國語普及團體の組織等を行ふ。

十一、國語普及運動は、國語の普及徹底を期するために、國語の音韻、文法、語彙等の研究調査を行ひ、國語教科書、國語辭典、國語讀本等を編纂し、又國語教員の養成、國語講習會の開催、國語普及團體の組織等を行ふ。

十二、國語普及運動は、國語の普及徹底を期するために、國語の音韻、文法、語彙等の研究調査を行ひ、國語教科書、國語辭典、國語讀本等を編纂し、又國語教員の養成、國語講習會の開催、國語普及團體の組織等を行ふ。

緬甸の資源を探る

〝米作〟の飛躍的増加期待

開發を待つ林、鑛、畜産業

【ビルマ○○十日發同盟】英領のビルマ（緬甸）は米作、林業、鑛業、畜産業等に豊富なる資源を有し開發に適した國土であるが、從來英國の植民地政策の下に專ら英國本國への原料供給地として開發されて來たため、ビルマ人自身の經濟的地位は極めて低く、ビルマ人口の六割を占むる農民は英印人の高利貸資本の爲に苦しめられてゐるのである。ビルマ人自身の經濟的地位の向上を圖るためには、ビルマの資源開發を急速に實現することが必要であるが、ビルマ人自身の經濟的地位の向上を圖るためには、ビルマの資源開發を急速に實現することが必要であるが、ビルマ人自身の經濟的地位の向上を圖るためには、ビルマの資源開發を急速に實現することが必要である。

一時間延長

貯蓄週間中の銀行と信組

東京では貯蓄增强中央委員會の決定に基き、貯蓄週間中の銀行、信用組合、無盡會社等の營業時間は一時間延長することとなつた。

廢品と拭布類の

臺北州下指定販賣人決定

臺北州下に於ける廢品回收並に拭布類の指定販賣人は左の通りである。

臺北市＝大同町一丁目、太平町一丁目、永樂町一丁目、日新町一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、同六丁目、同七丁目、同八丁目、同九丁目、同十丁目、同十一丁目、同十二丁目、同十三丁目、同十四丁目、同十五丁目、同十六丁目、同十七丁目、同十八丁目、同十九丁目、同二十丁目、同二十一丁目、同二十二丁目、同二十三丁目、同二十四丁目、同二十五丁目、同二十六丁目、同二十七丁目、同二十八丁目、同二十九丁目、同三十丁目、同三十一丁目、同三十二丁目、同三十三丁目、同三十四丁目、同三十五丁目、同三十六丁目、同三十七丁目、同三十八丁目、同三十九丁目、同四十丁目、同四十一丁目、同四十二丁目、同四十三丁目、同四十四丁目、同四十五丁目、同四十六丁目、同四十七丁目、同四十八丁目、同四十九丁目、同五十丁目、同五十一丁目、同五十二丁目、同五十三丁目、同五十四丁目、同五十五丁目、同五十六丁目、同五十七丁目、同五十八丁目、同五十九丁目、同六十丁目、同六十一丁目、同六十二丁目、同六十三丁目、同六十四丁目、同六十五丁目、同六十六丁目、同六十七丁目、同六十八丁目、同六十九丁目、同七十丁目、同七十一丁目、同七十二丁目、同七十三丁目、同七十四丁目、同七十五丁目、同七十六丁目、同七十七丁目、同七十八丁目、同七十九丁目、同八十丁目、同八十一丁目、同八十二丁目、同八十三丁目、同八十四丁目、同八十五丁目、同八十六丁目、同八十七丁目、同八十八丁目、同八十九丁目、同九十丁目、同九十一丁目、同九十二丁目、同九十三丁目、同九十四丁目、同九十五丁目、同九十六丁目、同九十七丁目、同九十八丁目、同九十九丁目、同百丁目、同百一丁目、同百二丁目、同百三丁目、同百四丁目、同百五丁目、同百六丁目、同百七丁目、同百八丁目、同百九丁目、同百十丁目、同百十一丁目、同百十二丁目、同百十三丁目、同百十四丁目、同百十五丁目、同百十六丁目、同百十七丁目、同百十八丁目、同百十九丁目、同百二十丁目、同百二十一丁目、同百二十二丁目、同百二十三丁目、同百二十四丁目、同百二十五丁目、同百二十六丁目、同百二十七丁目、同百二十八丁目、同百二十九丁目、同百三十丁目、同百三十一丁目、同百三十二丁目、同百三十三丁目、同百三十四丁目、同百三十五丁目、同百三十六丁目、同百三十七丁目、同百三十八丁目、同百三十九丁目、同百四十丁目、同百四十一丁目、同百四十二丁目、同百四十三丁目、同百四十四丁目、同百四十五丁目、同百四十六丁目、同百四十七丁目、同百四十八丁目、同百四十九丁目、同百五十丁目、同百五十一丁目、同百五十二丁目、同百五十三丁目、同百五十四丁目、同百五十五丁目、同百五十六丁目、同百五十七丁目、同百五十八丁目、同百五十九丁目、同百六十丁目、同百六十一丁目、同百六十二丁目、同百六十三丁目、同百六十四丁目、同百六十五丁目、同百六十六丁目、同百六十七丁目、同百六十八丁目、同百六十九丁目、同百七十丁目、同百七十一丁目、同百七十二丁目、同百七十三丁目、同百七十四丁目、同百七十五丁目、同百七十六丁目、同百七十七丁目、同百七十八丁目、同百七十九丁目、同百八十丁目、同百八十一丁目、同百八十二丁目、同百八十三丁目、同百八十四丁目、同百八十五丁目、同百八十六丁目、同百八十七丁目、同百八十八丁目、同百八十九丁目、同百九十丁目、同百九十一丁目、同百九十二丁目、同百九十三丁目、同百九十四丁目、同百九十五丁目、同百九十六丁目、同百九十七丁目、同百九十八丁目、同百九十九丁目、同二百丁目、同二百一丁目、同二百二丁目、同二百三丁目、同二百四丁目、同二百五丁目、同二百六丁目、同二百七丁目、同二百八丁目、同二百九丁目、同二百十丁目、同二百十一丁目、同二百十二丁目、同二百十三丁目、同二百十四丁目、同二百十五丁目、同二百十六丁目、同二百十七丁目、同二百十八丁目、同二百十九丁目、同二百二十丁目、同二百二十一丁目、同二百二十二丁目、同二百二十三丁目、同二百二十四丁目、同二百二十五丁目、同二百二十六丁目、同二百二十七丁目、同二百二十八丁目、同二百二十九丁目、同二百三十丁目、同二百三十一丁目、同二百三十二丁目、同二百三十三丁目、同二百三十四丁目、同二百三十五丁目、同二百三十六丁目、同二百三十七丁目、同二百三十八丁目、同二百三十九丁目、同二百四十丁目、同二百四十一丁目、同二百四十二丁目、同二百四十三丁目、同二百四十四丁目、同二百四十五丁目、同二百四十六丁目、同二百四十七丁目、同二百四十八丁目、同二百四十九丁目、同二百五十丁目、同二百五十一丁目、同二百五十二丁目、同二百五十三丁目、同二百五十四丁目、同二百五十五丁目、同二百五十六丁目、同二百五十七丁目、同二百五十八丁目、同二百五十九丁目、同二百六十丁目、同二百六十一丁目、同二百六十二丁目、同二百六十三丁目、同二百六十四丁目、同二百六十五丁目、同二百六十六丁目、同二百六十七丁目、同二百六十八丁目、同二百六十九丁目、同二百七十丁目、同二百七十一丁目、同二百七十二丁目、同二百七十三丁目、同二百七十四丁目、同二百七十五丁目、同二百七十六丁目、同二百七十七丁目、同二百七十八丁目、同二百七十九丁目、同二百八十丁目、同二百八十一丁目、同二百八十二丁目、同二百八十三丁目、同二百八十四丁目、同二百八十五丁目、同二百八十六丁目、同二百八十七丁目、同二百八十八丁目、同二百八十九丁目、同二百九十丁目、同二百九十一丁目、同二百九十二丁目、同二百九十三丁目、同二百九十四丁目、同二百九十五丁目、同二百九十六丁目、同二百九十七丁目、同二百九十八丁目、同二百九十九丁目、同三百丁目、同三百一丁目、同三百二丁目、同三百三丁目、同三百四丁目、同三百五丁目、同三百六丁目、同三百七丁目、同三百八丁目、同三百九丁目、同三百十丁目、同三百十一丁目、同三百十二丁目、同三百十三丁目、同三百十四丁目、同三百十五丁目、同三百十六丁目、同三百十七丁目、同三百十八丁目、同三百十九丁目、同三百二十丁目、同三百二十一丁目、同三百二十二丁目、同三百二十三丁目、同三百二十四丁目、同三百二十五丁目、同三百二十六丁目、同三百二十七丁目、同三百二十八丁目、同三百二十九丁目、同三百三十丁目、同三百三十一丁目、同三百三十二丁目、同三百三十三丁目、同三百三十四丁目、同三百三十五丁目、同三百三十六丁目、同三百三十七丁目、同三百三十八丁目、同三百三十九丁目、同三百四十丁目、同三百四十一丁目、同三百四十二丁目、同三百四十三丁目、同三百四十四丁目、同三百四十五丁目、同三百四十六丁目、同三百四十七丁目、同三百四十八丁目、同三百四十九丁目、同三百五十丁目、同三百五十一丁目、同三百五十二丁目、同三百五十三丁目、同三百五十四丁目、同三百五十五丁目、同三百五十六丁目、同三百五十七丁目、同三百五十八丁目、同三百五十九丁目、同三百六十丁目、同三百六十一丁目、同三百六十二丁目、同三百六十三丁目、同三百六十四丁目、同三百六十五丁目、同三百六十六丁目、同三百六十七丁目、同三百六十八丁目、同三百六十九丁目、同三百七十丁目、同三百七十一丁目、同三百七十二丁目、同三百七十三丁目、同三百七十四丁目、同三百七十五丁目、同三百七十六丁目、同三百七十七丁目、同三百七十八丁目、同三百七十九丁目、同三百八十丁目、同三百八十一丁目、同三百八十二丁目、同三百八十三丁目、同三百八十四丁目、同三百八十五丁目、同三百八十六丁目、同三百八十七丁目、同三百八十八丁目、同三百八十九丁目、同三百九十丁目、同三百九十一丁目、同三百九十二丁目、同三百九十三丁目、同三百九十四丁目、同三百九十五丁目、同三百九十六丁目、同三百九十七丁目、同三百九十八丁目、同三百九十九丁目、同四百丁目、同四百一丁目、同四百二丁目、同四百三丁目、同四百四丁目、同四百五丁目、同四百六丁目、同四百七丁目、同四百八丁目、同四百九丁目、同四百十丁目、同四百十一丁目、同四百十二丁目、同四百十三丁目、同四百十四丁目、同四百十五丁目、同四百十六丁目、同四百十七丁目、同四百十八丁目、同四百十九丁目、同四百二十丁目、同四百二十一丁目、同四百二十二丁目、同四百二十三丁目、同四百二十四丁目、同四百二十五丁目、同四百二十六丁目、同四百二十七丁目、同四百二十八丁目、同四百二十九丁目、同四百三十丁目、同四百三十一丁目、同四百三十二丁目、同四百三十三丁目、同四百三十四丁目、同四百三十五丁目、同四百三十六丁目、同四百三十七丁目、同四百三十八丁目、同四百三十九丁目、同四百四十丁目、同四百四十一丁目、同四百四十二丁目、同四百四十三丁目、同四百四十四丁目、同四百四十五丁目、同四百四十六丁目、同四百四十七丁目、同四百四十八丁目、同四百四十九丁目、同四百五十丁目、同四百五十一丁目、同四百五十二丁目、同四百五十三丁目、同四百五十四丁目、同四百五十五丁目、同四百五十六丁目、同四百五十七丁目、同四百五十八丁目、同四百五十九丁目、同四百六十丁目、同四百六十一丁目、同四百六十二丁目、同四百六十三丁目、同四百六十四丁目、同四百六十五丁目、同四百六十六丁目、同四百六十七丁目、同四百六十八丁目、同四百六十九丁目、同四百七十丁目、同四百七十一丁目、同四百七十二丁目、同四百七十三丁目、同四百七十四丁目、同四百七十五丁目、同四百七十六丁目、同四百七十七丁目、同四百七十八丁目、同四百七十九丁目、同四百八十丁目、同四百八十一丁目、同四百八十二丁目、同四百八十三丁目、同四百八十四丁目、同四百八十五丁目、同四百八十六丁目、同四百八十七丁目、同四百八十八丁目、同四百八十九丁目、同四百九十丁目、同四百九十一丁目、同四百九十二丁目、同四百九十三丁目、同四百九十四丁目、同四百九十五丁目、同四百九十六丁目、同四百九十七丁目、同四百九十八丁目、同四百九十九丁目、同五百丁目、同五百一丁目、同五百二丁目、同五百三丁目、同五百四丁目、同五百五丁目、同五百六丁目、同五百七丁目、同五百八丁目、同五百九丁目、同五百十丁目、同五百十一丁目、同五百十二丁目、同五百十三丁目、同五百十四丁目、同五百十五丁目、同五百十六丁目、同五百十七丁目、同五百十八丁目、同五百十九丁目、同五百二十丁目、同五百二十一丁目、同五百二十二丁目、同五百二十三丁目、同五百二十四丁目、同五百二十五丁目、同五百二十六丁目、同五百二十七丁目、同五百二十八丁目、同五百二十九丁目、同五百三十丁目、同五百三十一丁目、同五百三十二丁目、同五百三十三丁目、同五百三十四丁目、同五百三十五丁目、同五百三十六丁目、同五百三十七丁目、同五百三十八丁目、同五百三十九丁目、同五百四十丁目、同五百四十一丁目、同五百四十二丁目、同五百四十三丁目、同五百四十四丁目、同五百四十五丁目、同五百四十六丁目、同五百四十七丁目、同五百四十八丁目、同五百四十九丁目、同五百五十丁目、同五百五十一丁目、同五百五十二丁目、同五百五十三丁目、同五百五十四丁目、同五百五十五丁目、同五百五十六丁目、同五百五十七丁目、同五百五十八丁目、同五百五十九丁目、同五百六十丁目、同五百六十一丁目、同五百六十二丁目、同五百六十三丁目、同五百六十四丁目、同五百六十五丁目、同五百六十六丁目、同五百六十七丁目、同五百六十八丁目、同五百六十九丁目、同五百七十丁目、同五百七十一丁目、同五百七十二丁目、同五百七十三丁目、同五百七十四丁目、同五百七十五丁目、同五百七十六丁目、同五百七十七丁目、同五百七十八丁目、同五百七十九丁目、同五百八十丁目、同五百八十一丁目、同五百八十二丁目、同五百八十三丁目、同五百八十四丁目、同五百八十五丁目、同五百八十六丁目、同五百八十七丁目、同五百八十八丁目、同五百八十九丁目、同五百九十丁目、同五百九十一丁目、同五百九十二丁目、同五百九十三丁目、同五百九十四丁目、同五百九十五丁目、同五百九十六丁目、同五百九十七丁目、同五百九十八丁目、同五百九十九丁目、同六百丁目、同六百一丁目、同六百二丁目、同六百三丁目、同六百四丁目、同六百五丁目、同六百六丁目、同六百七丁目、同六百八丁目、同六百九丁目、同六百十丁目、同六百十一丁目、同六百十二丁目、同六百十三丁目、同六百十四丁目、同六百十五丁目、同六百十六丁目、同六百十七丁目、同六百十八丁目、同六百十九丁目、同六百二十丁目、同六百二十一丁目、同六百二十二丁目、同六百二十三丁目、同六百二十四丁目、同六百二十五丁目、同六百二十六丁目、同六百二十七丁目、同六百二十八丁目、同六百二十九丁目、同六百三十丁目、同六百三十一丁目、同六百三十二丁目、同六百三十三丁目、同六百三十四丁目、同六百三十五丁目、同六百三十六丁目、同六百三十七丁目、同六百三十八丁目、同六百三十九丁目、同六百四十丁目、同六百四十一丁目、同六百四十二丁目、同六百四十三丁目、同六百四十四丁目、同六百四十五丁目、同六百四十六丁目、同六百四十七丁目、同六百四十八丁目、同六百四十九丁目、同六百五十丁目、同六百五十一丁目、同六百五十二丁目、同六百五十三丁目、同六百五十四丁目、同六百五十五丁目、同六百五十六丁目、同六百五十七丁目、同六百五十八丁目、同六百五十九丁目、同六百六十丁目、同六百六十一丁目、同六百六十二丁目、同六百六十三丁目、同六百六十四丁目、同六百六十五丁目、同六百六十六丁目、同六百六十七丁目、同六百六十八丁目、同六百六十九丁目、同六百七十丁目、同六百七十一丁目、同六百七十二丁目、同六百七十三丁目、同六百七十四丁目、同六百七十五丁目、同六百七十六丁目、同六百七十七丁目、同六百七十八丁目、同六百七十九丁目、同六百八十丁目、同六百八十一丁目、同六百八十二丁目、同六百八十三丁目、同六百八十四丁目、同六百八十五丁目、同六百八十六丁目、同六百八十七丁目、同六百八十八丁目、同六百八十九丁目、同六百九十丁目、同六百九十一丁目、同六百九十二丁目、同六百九十三丁目、同六百九十四丁目、同六百九十五丁目、同六百九十六丁目、同六百九十七丁目、同六百九十八丁目、同六百九十九丁目、同七百丁目、同七百一丁目、同七百二丁目、同七百三丁目、同七百四丁目、同七百五丁目、同七百六丁目、同七百七丁目、同七百八丁目、同七百九丁目、同七百十丁目、同七百十一丁目、同七百十二丁目、同七百十三丁目、同七百十四丁目、同七百十五丁目、同七百十六丁目、同七百十七丁目、同七百十八丁目、同七百十九丁目、同七百二十丁目、同七百二十一丁目、同七百二十二丁目、同七百二十三丁目、同七百二十四丁目、同七百二十五丁目、同七百二十六丁目、同七百二十七丁目、同七百二十八丁目、同七百二十九丁目、同七百三十丁目、同七百三十一丁目、同七百三十二丁目、同七百三十三丁目、同七百三十四丁目、同七百三十五丁目、同七百三十六丁目、同七百三十七丁目、同七百三十八丁目、同七百三十九丁目、同七百四十丁目、同七百四十一丁目、同七百四十二丁目、同七百四十三丁目、同七百四十四丁目、同七百四十五丁目、同七百四十六丁目、同七百四十七丁目、同七百四十八丁目、同七百四十九丁目、同七百五十丁目、同七百五十一丁目、同七百五十二丁目、同七百五十三丁目、同七百五十四丁目、同七百五十五丁目、同七百五十六丁目、同七百五十七丁目、同七百五十八丁目、同七百五十九丁目、同七百六十丁目、同七百六十一丁目、同七百六十二丁目、同七百六十三丁目、同七百六十四丁目、同七百六十五丁目、同七百六十六丁目、同七百六十七丁目、同七百六十八丁目、同七百六十九丁目、同七百七十丁目、同七百七十一丁目、同七百七十二丁目、同七百七十三丁目、同七百七十四丁目、同七百七十五丁目、同七百七十六丁目、同七百七十七丁目、同七百七十八丁目、同七百七十九丁目、同七百八十丁目、同七百八十一丁目、同七百八十二丁目、同七百八十三丁目、同七百八十四丁目、同七百八十五丁目、同七百八十六丁目、同七百八十七丁目、同七百八十八丁目、同七百八十九丁目、同七百九十丁目、同七百九十一丁目、同七百九十二丁目、同七百九十三丁目、同七百九十四丁目、同七百九十五丁目、同七百九十六丁目、同七百九十七丁目、同七百九十八丁目、同七百九十九丁目、同八百丁目、同八百一丁目、同八百二丁目、同八百三丁目、同八百四丁目、同八百五丁目、同八百六丁目、同八百七丁目、同八百八丁目、同八百九丁目、同八百十丁目、同八百十一丁目、同八百十二丁目、同八百十三丁目、同八百十四丁目、同八百十五丁目、同八百十六丁目、同八百十七丁目、同八百十八丁目、同八百十九丁目、同八百二十丁目、同八百二十一丁目、同八百二十二丁目、同八百二十三丁目、同八百二十四丁目、同八百二十五丁目、同八百二十六丁目、同八百二十七丁目、同八百二十八丁目、同八百二十九丁目、同八百三十丁目、同八百三十一丁目、同八百三十二丁目、同八百三十三丁目、同八百三十四丁目、同八百三十五丁目、同八百三十六丁目、同八百三十七丁目、同八百三十八丁目、同八百三十九丁目、同八百四十丁目、同八百四十一丁目、同八百四十二丁目、同八百四十三丁目、同八百四十四丁目、同八百四十五丁目、同八百四十六丁目、同八百四十七丁目、同八百四十八丁目、同八百四十九丁目、同八百五十丁目、同八百五十一丁目、同八百五十二丁目、同八百五十三丁目、同八百五十四丁目、同八百五十五丁目、同八百五十六丁目、同八百五十七丁目、同八百五十八丁目、同八百五十九丁目、同八百六十丁目、同八百六十一丁目、同八百六十二丁目、同八百六十三丁目、同八百六十四丁目、同八百六十五丁目、同八百六十六丁目、同八百六十七丁目、同八百六十八丁目、同八百六十九丁目、同八百七十丁目、同八百七十一丁目、同八百七十二丁目、同八百七十三丁目、同八百七十四丁目、同八百七十五丁目、同八百七十六丁目、同八百七十七丁目、同八百七十八丁目、同八百七十九丁目、同八百八十丁目、同八百八十一丁目、同八百八十二丁目、同八百八十三丁目、同八百八十四丁目、同八百八十五丁目、同八百八十六丁目、同八百八十七丁目、同八百八十八丁目、同八百八十九丁目、同八百九十丁目、同八百九十一丁目、同八百九十二丁目、同八百九十三丁目、同八百九十四丁目、同八百九十五丁目、同八百九十六丁目、同八百九十七丁目、同八百九十八丁目、同八百九十九丁目、同九百丁目、同九百一丁目、同九百二丁目、同九百三丁目、同九百四丁目、同九百五丁目、同九百六丁目、同九百七丁目、同九百八丁目、同九百九丁目、同九百十丁目、同九百十一丁目、同九百十二丁目、同九百十三丁目、同九百十四丁目、同九百十五丁目、同九百十六丁目、同九百十七丁目、同九百十八丁目、同九百十九丁目、同九百二十丁目、同九百二十一丁目、同九百二十二丁目、同九百二十三丁目、同九百二十四丁目、同九百二十五丁目、同九百二十六丁目、同九百二十七丁目、同九百二十八丁目、同九百二十九丁目、同九百三十丁目、同九百三十一丁目、同九百三十二丁目、同九百三十三丁目、同九百三十四丁目、同九百三十五丁目、同九百三十六丁目、同九百三十七丁目、同九百三十八丁目、同九百三十九丁目、同九百四十丁目、同九百四十一丁目、同九百四十二丁目、同九百四十三丁目、同九百四十四丁目、同九百四十五丁目、同九百四十六丁目、同九百四十七丁目、同九百四十八丁目、同九百四十九丁目、同九百五十丁目、同九百五十一丁目、同九百五十二丁目、同九百五十三丁目、同九百五十四丁目、同九百五十五丁目、同九百五十六丁目、同九百五十七丁目、同九百五十八丁目、同九百五十九丁目、同九百六十丁目、同九百六十一丁目、同九百六十二丁目、同九百六十三丁目、同九百六十四丁目、同九百六十五丁目、同九百六十六丁目、同九百六十七丁目、同九百六十八丁目、同九百六十九丁目、同九百七十丁目、同九百七十一丁目、同九百七十二丁目、同九百七十三丁目、同九百七十四丁目、同九百七十五丁目、同九百七十六丁目、同九百七十七丁目、同九百七十八丁目、同九百七十九丁目、同九百八十丁目、同九百八十一丁目、同九百八十二丁目、同九百八十三丁目、同九百八十四丁目、同九百八十五丁目、同九百八十六丁目、同九百八十七丁目、同九百八十八丁目、同九百八十九丁目、同九百九十丁目、同九百九十一丁目、同九百九十二丁目、同九百九十三丁目、同九百九十四丁目、同九百九十五丁目、同九百九十六丁目、同九百九十七丁目、同九百九十八丁目、同九百九十九丁目、同千丁目、同千一丁目、同千二丁目、同千三丁目、同千四丁目、同千五丁目、同千六丁目、同千七丁目、同千八丁目、同千九丁目、同千十丁目、同千十一丁目、同千十二丁目、同千十三丁目、同千十四丁目、同千十五丁目、同千十六丁目、同千十七丁目、同千十八丁目、同千十九丁目、同千二十丁目、同千二十一丁目、同千二十二丁目、同千二十三丁目、同千二十四丁目、同千二十五丁目、同千二十六丁目、同千二十七丁目、同千二十八丁目、同千二十九丁目、同千三十丁目、同千三十一丁目、同千三十二丁目、同千三十三丁目、同千三十四丁目、同千三十五丁目、同千三十六丁目、同千三十七丁目、同千三十八丁目、同千三十九丁目、同千四十丁目、同千四十一丁目、同千四十二丁目、同千四十三丁目、同千四十四丁目、同千四十五丁目、同千四十六丁目、同千四十七丁目、同千四十八丁目、同千四十九丁目、同千五十丁目、同千五十一丁目、同千五十二丁目、同千五十三丁目、同千五十四丁目、同千五十五丁目、同千五十六丁目、同千五十七丁目、同千五十八丁目、同千五十九丁目、同千六十丁目、同千六十一丁目、同千六十二丁目、同千六十三丁目、同千六十四丁目、同千六十五丁目、同千六十六丁目、同千六十七丁目、同千六十八丁目、同千六十九丁目、同千七十丁目、同千七十一丁目、同千七十二丁目、同千七十三丁目、同千七十四丁目、同千七十五丁目、同千七十六丁目、同千七十七丁目、同千七十八丁目、同千七十九丁目、同千八十丁目、同千八十一丁目、同千八十二丁目、同千八十三丁目、同千八十四丁目、同千八十五丁目、同千八十六丁目、同千八十七丁目、同千八十八丁目、同千八十九丁目、同千九十丁目、同千九十一丁目、同千九十二丁目、同千九十三丁目、同千九十四丁目、同千九十五丁目、同千九十六丁目、同千九十七丁目、同千九十八丁目、同千九十九丁目、同千百丁目、同千百一丁目、同千百二丁目、同千百三丁目、同千百四丁目、同千百五丁目、同千百六丁目、同千百七丁目、同千百八丁目、同千百九丁目、同千百十丁目、同千百十一丁目、同千百十二丁目、同千百十三丁目、同千百十四丁目、同千百十五丁目、同千百十六丁目、同千百十七丁目、同千百十八丁目、同千百十九丁目、同千百二十丁目、同千百二十一丁目、同千百二十二丁目、同千百二十三丁目、同千百二十四丁目、同千百二十五丁目、同千百二十六丁目、同千百二十七丁目、同千百二十八丁目、同千百二十九丁目、同千百三十丁目、同千百三十一丁目、同千百三十二丁目、同千百三十三丁目、同千百三十四丁目、同千百三十五丁目、同千百三十六丁目、同千百三十七丁目、同千百三十八丁目、同千百三十九丁目、同千百四十丁目、同千百四十一丁目、同千百四十二丁目、同千百四十三丁目、同千百四十四丁目、同千百四十五丁目、同千百四十六丁目、同千百四十七丁目、同千百四十八丁目、同千百四十九丁目、同千百五十丁目、同千百五十一丁目、同千百五十二丁目、同千百五十三丁目、同千百五十四丁目、同千百五十五丁目、同千百五十六丁目、同千百五十七丁目、同千百五十八丁目、同千百五十九丁目、同千百六十丁目、同千百六十一丁目、同千百六十二丁目、同千百六十三丁目、同千百六十四丁目、同千百六十五丁目、同千百六十六丁目、同千百六十七丁目、同千百六十八丁目、同千百六十九丁目、同千百七十丁目、同千百七十一丁目、同千百七十二丁目、同千百七十三丁目、同千百七十四丁目、同千百七十五丁目、同千百七十六丁目、同千百七十七丁目、同千百七十八丁目、同千百七十九丁目、同千百八十丁目、同千百八十一丁目、同千百八十二丁目、同千百八十三丁目、同千百八十四丁目、同千百八十五丁目、同千百八十六丁目、同千百八十七丁目、同千百八十八丁目、同千百八十九丁目、同千百九十丁目、同千百九十一丁目、同千百九十二丁目、同千百九十三丁目、同千百九十四丁目、同千百九十五丁目、同千百九十六丁目、同千百九十七丁目、同千百九十八丁目、同千百九十九丁目、同千二百丁目、同千二百一丁目、同千二百二丁目、同千二百三丁目、同千二百四丁目、同千二百五丁目、同千二百六丁目、同千二百七丁目、同千二百八丁目、同千二百九丁目、同千二百十丁目、同千二百十一丁目、同千二百十二丁目、同千二百十三丁目、同千二百十四丁目、同千二百十五丁目、同千二百十六丁目、同千二百十七丁目、同千二百十八丁目、同千二百十九丁目、同千二百二十丁目、同千二百二十一丁目、同千二百二十二丁目、同千二百二十三丁目、同千二百二十四丁目、同千二百二十五丁目、同千二百二十六丁目、同千二百二十七丁目、同千二百二十八丁目、同千二百二十九丁目、同千二百三十丁目、同千二百三十一丁目、同千二百三十二丁目、同千二百三十三丁目、同千二百三十四丁目、同千二百三十五丁目、同千二百三十六丁目、同千二百三十七丁目、同千二百三十八丁目、同千二百三十九丁目、同千二百四十丁目、同千二百四十一丁目、同千二百四十二丁目、同千二百四十三丁目、同千二百四十四丁目、同千二百四十五丁目、同千二百四十六丁目、同千二百四十七丁目、同千二百四十八丁目、同千二百四十九丁目、同千二百五十丁目、同千二百五十一丁目、同千二百五十二丁目、同千二百五十三丁目、同千二百五十四丁目、同千二百五十五丁目、同千二百五十六丁目、同千二百五十七丁目、同千二百五十八丁目、同千二百五十九丁目、同千二百六十丁目、同千二百六十一丁目、同千二百六十二丁目、同千二百六十三丁目、同千二百六十四丁目、同千二百六十五丁目、同千二百六十六丁目、同千二百六十七丁目、同千二百六十八丁目、同千二百六十九丁目、同千二百七十丁目、同千二百七十一丁目、同千二百七十二丁目、同千二百七十三丁目、同千二百七十四丁目、同千二百七十五丁目、同千二百七十六丁目、同千二百七十七丁目、同千二百七十八丁目、同千二百七十九丁目、同千二百八十丁目、同千二百八十一丁目、同千二百八十二丁目、同千二百八十三丁目、同千二百八十四丁目、同千二百八十五丁目、同千二百八十六丁目、同千二百八十七丁目、同千二百八十八丁目、同千二百八十九丁目、同千二百九十丁目、同千二百九十一丁目、同千二百九十二丁目、同千二百九十三丁目、同千二百九十四丁目、同千二百九十五丁目、同千二百九十六丁目、同千二百九十七丁目、同千二百九十八丁目、同千二百九十九丁目、同千三百丁目、同千三百一丁目、同千三百二丁目、同千三百三丁目、同千三百四丁目、同千三百五丁目、同千三百六丁目、同千三百七丁目、同千三百八丁目、同千三百九丁目、同千三百十丁目、同千三百十一丁目、同千三百十二丁目、同千三百十三丁目、同千三百十四丁目、同千三百十五丁目、同千三百十六丁目、同千三百十七丁目、同千三百十八丁目、同千三百十九丁目、同千三百二十丁目、同千三百二十一丁目、同千三百二十二丁目、同千三百二十三丁目、同千三百二十四丁目、同千三百二十五丁目、同千三百二十六丁目、同千三百二十七丁目、同千三百二十八丁目、同千三百二十九丁目、同千三百三十丁目、同千三百三十一丁目、同千三百三十二丁目、同千三百三十三丁目、同千三百三十四丁目、同千三百三十五丁目、同千三百三十六丁目、同千三百三十七丁目、同千三百三十八丁目、同千三百三十九丁目、同千三百四十丁目、同千三百四十一丁目、同千三百四十二丁目、同千三百四十三丁目、同千三百四十四丁目、同千三百四十五丁目、同千三百四十六丁目、同千三百四十七丁目、同千三百四十八丁目、同千三百四十九丁目、同千三百五十丁目、同千三百五十一丁目、同千三百五十二丁目、同千三百五十三丁目、同千三百五十四丁目、同千三百五十五丁目、同千三百五十六丁目、同千三百五十七丁目、同千三百五十八丁目、同千三百五十九丁目、同千三百六十丁目、同千三百六十一丁目、同千三百六十二丁目、同千三百六十三丁目、同千三百六十四丁目、同千三百六十五丁目、同千三百六十六丁目、同千三百六十七丁目、同千三百六十八丁目、同千三百六十九丁目、同千三百七十丁目、同千三百七十一丁目、同千三百七十二丁目、同千三百七十三丁目、同千三百七十四丁目、同千三百七十五丁目、同千三百七十六丁目、同千三百七十七丁目、同千三百七十八丁目、同千三百七十九丁目、同千三百八十丁目、同千三百八十一丁目、同千三百八十二丁目、同千三百八十三丁目、同千三百八十四丁目、同千三百八十五丁目、同千三百八十六丁目、同千三百八十七丁目、同千三百八十八丁目、同千三百八十九丁目、同千三百九十丁目、同千三百九十一丁目、同千三百九十二丁目、同千三百九十三丁目、同千三百九十四丁目、同千三百九十五丁目、同千三百九十六丁目、同千三百九十七丁目、同千三百九十八丁目、同千三百九十九丁目、同千四百丁目、同千四百一丁目、同千四百二丁目、同千四百三丁目、同千四百四丁目、同千四百五丁目、同千四百六丁目、同千四百七丁目、同千四百八丁目、同千四百九丁目、同千四百十丁目、同千四百十一丁目、同千四百十二丁目、同千四百十三丁目、同千四百十四丁目、同千四百十五丁目、同千四百十六丁目、同千四百十七丁目、同千四百十八丁目、同千四百十九丁目、同千四百二十丁目、同千四百二十一丁目、同千四百二十二丁目、同千四百二十三丁目、同千四百二十四丁目、同千四百二十五丁目、同千四百二十六丁目

文展事績 生存者 死線者 論功行賞

輝く殊勲甲 加藤（藤）少佐他一名

畏し 滿洲國軍將士へ 初の勳章、從軍記章御贈與

△生存者關係（少將以上）

大佐 上野子保殿 陸軍
上將 吉岡 陸軍
上將 三浦 陸軍
上將 王 陸軍

△死歿者（少將以上）

少將 加藤（藤）藏 陸軍
少將 佐野 陸軍

米國の進攻企圖潰ゆ

平出海軍大佐放送

米の海洋作戰全く挫折

海鷲育ての親兩少將語る

第一回奉公委員會

各市郡代表熱心に答申

夏季課題帳を內審査

國校教育に文教局の親心

日章旗 全比島に飜る

比島人華僑等 皇軍の威武に驚歎

滿田臺銀マニラ支店支配人歸臺談

お山の女青に醫療知識

臺北州理蕃課で一石二鳥の名案

傳染病媒介の大敵撲滅へ

蠅、油虫等の發源戰展開

特殊潛航艇 マダガスカル奇襲

松琢健臺伯爵

皇奉新竹州支部

皇奉主催教育調係者懇談會

陸王號 新車入荷

南邦自動車株式會社假營業所

友の糊

スフ其他織物のホルモン

共榮圈の指導者へ
好伴侶立派な花嫁を

【臺南特電十日發】皇國中央會議員にして翼賛壯年團中央指導部長たる安藤紀三郎氏は、その後任者として同團の副指導部長たる前臺南州知事現貴族院議員北島謙三氏を推薦し、北島氏も之を快諾したので、愈々十日午後二時より臺南市公會堂に於て開催の同團臺南州支部の總會に於て、安藤氏の後任として北島氏を推薦することとなり、尚近く安藤氏には顧問の嘱託があるものと見られてゐる

軍旗の下に參ずる
訓練所入りする"青年の決意"

【臺南特電十日發】臺南州下に於ける陸軍兵志願者は、本年度より陸軍特別志願兵制度の實施に伴ひ、從來の志願者數に比し、著しく増加の傾向を示し、既に第一回の入所者は、去る四月二十日を以て、臺南市外善化の陸軍歩兵第二聯隊に入所、軍人精神の涵養に努めてゐるが、第二回の入所者は、六月二十日を以て入所することになつてゐるが、第一回入所者の訓練振りを見學せんと、去る十日、臺南州下各地より、父兄關係者約百名が、臺南市に集合、午前八時半、自動車數臺に分乘して、善化の聯隊に向つたが、第一回入所者は、既に一週間の訓練を經過してゐるので、何れも軍人精神に燃え、訓練振りも實に立派なもので、父兄關係者一同は、非常な感激に打たれてゐた

遺兒を立派に
故李軍屬の妻女

【新竹電話】此の程新竹州下に於ける軍屬の戰死者に對する弔慰金の傳達があつたが、新竹州竹東郡竹東街出身故李軍屬の妻女は、此の弔慰金に對し「夫は軍人として戰場に於て名譽の戰死を遂げたものであり、弔慰金等は何も要りません、唯だ遺兒を立派に育てゝ呉れゝばそれで滿足です」と語つてゐるが、金一封を贈つたところ、この美談に感激して次の如く語つた

「主人が戰死したことは、實に名譽の戰死であり、何も悲しむことはありません、この上は遺兒を立派に育てゝ呉れゝばそれで滿足です」

一死奉公の覺悟
"山の代表"矢崎君感激

【臺南特電】臺南州下に於ける陸軍兵志願者は、從來より逐年増加の傾向にあつたが、本年度より陸軍特別志願兵制度の實施に伴ひ、從來の志願者數に比し、著しく増加の傾向を示し、既に第一回の入所者は、去る四月二十日を以て、臺南市外善化の陸軍歩兵第二聯隊に入所、軍人精神の涵養に努めてゐるが、第二回の入所者は、六月二十日を以て入所することになつてゐるが、第一回入所者の訓練振りを見學せんと、去る十日、臺南州下各地より、父兄關係者約百名が、臺南市に集合、午前八時半、自動車數臺に分乘して、善化の聯隊に向つたが、第一回入所者は、既に一週間の訓練を經過してゐるので、何れも軍人精神に燃え、訓練振りも實に立派なもので、父兄關係者一同は、非常な感激に打たれてゐた

世紀の"處女列車"
けふ關門海底隧道の試運轉

【關門特電】世紀に殘る日本の事業として、本土、九州を結ぶ關門海底トンネルに世紀の處女列車を通す關門海底隧道は十一日午後二時三十分から行はれる二回の試運轉に於ける當日の出席者は、小倉、門司兩鐵道局長、小倉、門司兩市長、兩市會議長、兩商工會議所會頭、關門隧道期成會長、關門汽船會社長、關門倉庫會社長、關門運輸會社長、關門鐵工所長、關門電氣會社長、關門瓦斯會社長、關門製鋼所長、關門製作所長、關門造船所長、關門製鋼所長、關門製作所長、關門造船所長、關門製鋼所長、關門製作所長、關門造船所